

7月1日の韓国・EU FTA（韓国 - 欧州連合 自由貿易協定）発効から約2ヶ月が経過しました。これにより欧州産の食品の値段が下がり、私達の日常の食卓においても、欧州産の食品を目にする機会が少しずつ増えてきました。

韓国人の国民的愛用食であるサムギョブサル（豚の三枚肉）は、最近の口蹄疫騒動の影響で国産の店頭価格が昨年の平均1,400～1,800ウォン（約112～144円）/100gから、今年6月には2,500ウォン（約200円）/100gまで値上がりしました。一時は牛肉の価格よりも高くなったため、「金ギョブサル」とまで呼ばれ、一般家庭では購入を控えるほどの影響が出ました。しかし今回のFTA発効で、欧州産冷凍サムギョブサルが一気に800ウォン（約64円）/100gまで値下がりし（4～6月平均1,180ウォン/100g（約94円）、「この値段ならば輸入肉でも構わない！」と欧州産のサムギョブサルの消費が増えた結果、一般家庭でのサムギョブサルの消費量は通常に戻りました。関税庁のデータによると、今年7月のEU産冷凍豚肉^注の輸入量は1万3,380トン（去年同期比+215%）に増加しています。



サムギョブサル(950ウォン/100g：オランダ産)
ソウル市内スーパー：ホームプラス

ワインについては、EU産のものは値段が高く米国産やチリ産が主流でしたが、関税15%の即時撤廃により、EU産も手に入れやすくなりました。その結果競合することになった米国産やチリ産ワインも以前より平均5%程値下がりしました。先日、買い物に行った大手スーパーでは、FTA発効に合わせた最大80%の割引セールを行い、その日はワインを購入する人の列でたいへん賑わっていました。

チーズやバター等の乳製品の価格にはまだ影響は出ていないようですが、輸入量は着実に増えてきており、チーズは去年同期比44%増加しました。また、米国産・チリ産が大半を占めていた輸入オレングジ・葡萄においても、今までの半値程で購入できるようになりました。

水産物についても今後10年にわたって段階的に関税が撤廃されます。

多くの食品が今までよりも安く手に入れられるようになることは大変喜ばしいことですが、一方で、水産業をはじめ畜産・酪農等国内の関連従事者への影響が懸念されており、今後所得補償を含めた対策の必要性を感じます。

2010年のEU諸国との輸出入貿易額は922億ドル（約7兆3,760億円）で、EU諸国は韓国にとって主要な貿易相手です。まだ始まったばかりの韓国・EU FTAですが、今後、この恩恵をうまく活用していけば、国民の家計への一助になることでしょう。

注) 冷凍サムギョブサル：従来の関税25%を10年間で段階的に撤廃
為替：1ウォン=0.08円、1\$=80円にて換算